

公益財団法人さんりく基金
平成 29 年度第 1 回理事会 議事録

1 開催の日時及び場所

- (1) 日時 平成 29 年 5 月 30 日 (火) 午後 1 時 30 分から午後 2 時 30 分
- (2) 場所 岩手県盛岡市内丸 10 番 1 号 岩手県議会棟第 2 会議室

2 役員の現在数 理事 6 名 監事 2 名

3 出席者

(1) 理事

代表理事	千葉 茂樹	業務執行理事	鈴木 敦
理事	植田 眞弘	理事	中村 一郎

(2) 監事

監事	佐藤 修
----	------

(3) 事務局

事務局長	菅原 健司		
総務管理部長	竹花 光弘	企画事業部長	鈴木 暁之
総務管理部次長	柏葉 保行	DMO事業部次長	内城 仁
事務局員	藤原 杏奈	事務局員	川村 泉

4 欠席者

理事	菅野 信弘	理事	後藤 均
監事	菊池 芳泉		

5 議長

代表理事 千葉 茂樹

6 決議事項

- 第 1 号議案 平成 28 年度事業報告及び附属明細書の承認について
- 第 2 号議案 平成 28 年度計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及び財産目録の承認について
- 第 3 号議案 平成 29 年度第 1 回評議員会の日時及び場所並びに目的である事項等について

7 議事の経過

午後 1 時 30 分開会した。

鈴木業務執行理事が理事現在数 6 名中、本人出席 4 名により、定款第 37 条に定める定足数を満たしており、本理事会は成立した旨を告げた。また、監事には理事会運営規則第 13 条の規定により、理事会に出席し、意見を頂くこととなっているとの説明があった。続いて、千葉代表理事から、あいさつがあった。

続いて、定款第 39 条第 2 項により、議事録署名人は千葉代表理事、佐藤監事であるこ

とを確認し、以降の進行は、定款第 36 条の規定により、千葉代表理事が行うこととなった。

報告「職務執行の状況について」

千葉代表理事及び鈴木業務執行理事が執行状況を報告した。

議長が、報告について質問、意見を求めたが、特に発言はなく、直ちに議案の審議に入った。

第 1 号議案「平成 28 年度事業報告及び附属明細書の承認について」

第 2 号議案「平成 28 年度計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及び財産目録の承認について」

議長は第 1 号議案と第 2 号議案について関連があるとし、事務局に一括して説明を求め、菅原事務局長が説明した。引き続き、監査報告について佐藤監事が報告した。

議長が、第 1 号議案、第 2 号議案について一括して質問、意見を求めた。

【植田理事】

「三陸地域水産物の新たな物流システム構築に向けた調査」について、試行的に実施したようだが、狙いは輸送コストの削減か。今後の本格的な物流システムの構築につながる地域連携物流のノウハウを蓄積することができたということなので、資料を是非提供してほしい。

また、ルートについて洋野町から陸前高田までというのは難しいか。時間的に田老が限界か。仙台空港から香港・台湾ということも将来的に出来るのではないか。

【菅原事務局長】

事業者にとって、小口で荷物が少ない場合、それぞれの会社で配送を頼むとコストがかかるということと配送業者のドライバー確保の課題により輸送コストが高いということが課題であった。コスト削減に向けて、事業者が共同で配送できないかということで、今回は宮古から出発のルートで、試行的に実施したところ。

調査結果から、損益分岐点も分かり、荷物がある程度ないとコストに合わないということで、参画の事業者を増やすことも課題になってきている。

参画したいという事業者の声もあるので、今年度は県沿岸広域振興局の取組になるが、事業者を拡充したうえで引き続き連携して検討を重ねる。

【竹花総務管理部長】

ルートであるが、洋野町からだと時間がかかりすぎて、今の三陸沿岸道路の状況だと宮古スタートが時間的に限界である。道路がよくなれば、エリアは広がるが、北は、八戸から東北自動車道を通って、南は、気仙沼から集荷しているので、宮古と釜石あたりが一番困っているという状態だった。

【中村理事】

DMOの各種調査事業の結果資料について、興味深く拝見させていただいた。三陸鉄道でも色々調査しているが、団体客の動きは分かるが、個人客の動きがつかめていないというのが実態。今、観光は、団体から個人にシフトしてきているところなので、今後分析を進めていただいて、提供してもらえれば我々も活用できる。

また、県外からの来訪者の内訳は、青森県・宮城県が半数という結果で、今以上に八戸や仙台圏の人たちに重点的に営業をかけることが必要だとこの資料を見て思ったところ。

ホテルの客室稼働率については、沿岸のビジネスホテルの従業員の話によると、平日は復興関係の人が泊まるので稼働率がいいが、週末の稼働率の確保が課題だと聞く。復興需要もあと1、2年たつと、今より落ちていくという中で、沿岸の経済に与える影響は大きいと考えている。対策は難しいところはあるが、今のうちから意識をして色々な取組をしていく必要があると思ったところ。調査結果の詳細等について、提供してほしい。

【中村理事】

県北沿岸地域特産品開発事業について、各市町村まんべんなく助成しているようだが、何か掘り起こしをしているのか。

【菅原事務局長】

沿岸地域の商工会議所、商工会等を通じながら、事業者の掘り起こしをしている。

この事業は、主に販路が途絶えた事業者への支援といった復興支援の側面からスタートしたもの。今後については、復興の先を見据え、より内容を重視し、ブランド化につながる商品開発への支援ということで取組を進めていきたい。

【中村理事】

大船渡市だけ、申請がないのが気になる。

【菅原事務局長】

今年度は、大船渡市からの申請も多く、採択しているところ。

【植田理事】

今年度の助成事業募集状況について、「調査研究事業」の申請が25件あるが、岩手県立大学からは2件しか申請が出ていない。

実用性や事業性の高い研究に助成するものであるが、事業終了後、どのあたりまで実用化されているか、どれだけ実績があがっているか等、進捗状況のチェックや追跡調査、指導が必要ではないか。さんりく基金としてそこまで出来れば理想。県立大も岩大もそこは協力出来ると思う。

【菅原事務局長】

直近のものについては、事業の見直しという観点でヒアリング調査をしているが、長期的な調査として、研究成果が事業化に結び付いたかどうかについて調べてはいない。これまでの取組について、その後の検証がされてない部分があったので、今後方法について検討させていただきたい。

【鈴木業務執行理事】

調査と併せて、プレゼン審査の段階でも、申請の意図や事業化についてを確認していきたい。

【千葉代表理事】

交付決定の際に、何年間は追跡調査に協力してもらおうという条件をつけるなど、フォローができると思う。手続を含めて、フォローアップの仕方を工夫、検討していきたい。

【中村理事】

イベント助成事業について、5件ほど申請が出ているようだが、31年度に三陸防災復興博を実施するようなので、それにつながるようなイベントへ支援できれば一番いいと感じるが、いかがか。

【菅原事務局長】

単発に終わらずに、その後どのように効果があがっていくかという点を重要視している。31年度の三陸防災復興博につながるような視点で審査をしていきたい。

議長が、他に質問、意見を求めたが、特に発言はなく、第1号議案及び第2号議案の賛否を諮ったところ、全員異議なくこれを可決した。

第3号議案「平成29年度第1回評議員会の日時及び場所並びに目的である事項等について」

議長は、第3号議案について事務局に説明を求め、菅原事務局長が説明した。

議長が、第3号議案について質問、意見を求めたが、特に発言はなく、この賛否を諮ったところ、全員異議なくこれを可決した。

①開催日時 平成29年6月20日（火）午前11時00分

②開催場所 岩手県庁8階8-E会議室

③議事に付すべき事項

- ・平成28年度事業報告及び附属明細書の承認
- ・平成28年度計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及び財産目録の承認
- ・任期満了に伴う理事の選任について

その他 県出資等法人運営評価シートについて

議長はその他協議事項について説明を求め、菅原事務局長が説明した。

議長が質問、意見を求めたが、特に発言はなく、その他を終了した。

以上をもって議事の全部の審議及び報告等を終了したので、議長は午後 2 時 30 分閉会
を宣し、解散した。